

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年9月29日

事業所名 ゆうわ・あいき

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	0	ここはどういうスペースかを職員全体で子どもたちに伝え、それが分かるようになってきている。	スペース自体は適切と考えるが、クールダウンする場所が必要となるため、適宜場所の確保をします。
	2 職員の配置数は適切である	7	2	利用者数を常にチェックしながら、シフトを組み、適正にこれに対応する。	急病や数日に渡り休み等理由の職員が複数出たときは全体で配置を変更します。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	2	各段、バリアフリー対策はされている。	段差にスロープを設けています。現状、特別問題はありません。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9	0	ご利用者の帰宅後には、館内の掃除・消毒を行い、清潔な空間を保っている。	今後も心地良くご利用いただけるように、清潔な空間保持に努めます。また消毒等も継続して行い、感染予防に努めていきます。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	0	日々のミーティングでPDCAを行っている。	評価に基づいて改善したつもりでも不十分な場合があり、再度PDCAサイクルを行っていく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	0	保護者向け評価を行い、業務の改善を行っている。	改善内容について、保護者へお知らせをしている。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	0	ホームページにて公開。	ホームページで公開。毎月「通信なかね」を発行予定しているため、声かけを増やし、保護者との共有に努める。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	3	次回受審予定。	定期的に第三者評価機構の外部評価を受審し、業務改善を図ります。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	2	研修参加者は事業所へ研修報告をすることでフィードバックしている。	虐待防止研修、職員のスキルアップ研修等様々な研修の機会が確保されています。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9	0	全職員が共通理解のもとに計画を作成している。	全職員がより深いニーズの把握、課題の分析、サービス、計画へ反映させていく必要があります。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	2	アセスメントツールの活用を心がけている。	アセスメントシートを使用し、状況は把握されているが、保護者との連携、確認しながら業務に反映させていく。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9	0	全職員が共通理解のもとに計画を作成している。	全職員がより深いニーズの把握、課題の分析、サービス、計画へ反映させていく必要があります。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9	0	マンネリ化を避け、それぞれに意をもつよう取り組んでいる。	ガイドラインの総則をふまえ、基本活動を複数組み合わせています。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	9	0	事業所の目的を意識しての立案時に全職員で試行錯誤している。	職員間での意見の出し合い、季節、事業所の目的に沿うものとして立案します。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	0	必要な活動は表現や目標を変える等工夫する。	必要性のあるもの、有用であるものをプログラムに組み込む。端的なものを安易に組み込まない。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	9	0	個別と集団、それぞれの活動の意味、目的を明確にする。	保護者からの情報、職員の把握している状況などを勘案しながらサービス計画を作成しています。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	9	前日の支援終了後に、その日の反省と翌日の予定を確認している。	よりきめ細やかな支援内容の把握、役割分担等の確認が必要とされます。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	9	共通理解、情報の共有、同一支援を徹底している。	打ち合わせ時間を確保し、共有内容を深める必要があります。話し合いの機会を増やしていきます。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	9	利用者記録が支援計画の指標の礎となることの職員の認識。	利用者記録を記入し支援の検証、改善につなげています。
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9	9	職員間での相互理解に努める。	定期的なモニタリング、サービス計画の見直しの必要性の判断に努めています。	
関係機関や保護者との連携関係	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	0	極力右記2者が参加するようにする。	児童発達支援管理や管理者が参加するなど複数で参加したいです。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9	0	つながりある支援に努める。	以前利用していたサービスと連携をとって相互理解に努めています。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	-	-	契約時明確にする。	医療的ケアが必要な利用者は通所していないが、受け入れる場合は職員配置、主治医、協力医療機関と体制を整えます。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	-	-	契約時明確にする。	医療的ケアが必要な利用者は通所していないが、受け入れる場合は職員配置、主治医、協力医療機関と体制を整えます。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	1	つながりある支援に努める。	以前利用していたサービスと連携をとって相互理解に努めています。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	1	先生方とのコミュニケーションをよくとる。	下校時間、行事予定等の提出を受けて迷いやサービス計画に反映している。また、トラブルの発生時等の学校との連携に努める。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関や保護者との連携	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	3	機会を得る度、積極的にこれに参加する。	新型コロナウイルスの影響で行えていません。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	6	3	情報の収集に努める。	新型コロナウイルスの影響にて回避しているが、開催されるイベントには積極的に参加します。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	6	3	情報の収集に努める。	新型コロナウイルスの影響もあるが、参加する意向はあるため、発信もしていく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0	新型コロナウイルスの影響より電話、メールのやり取りが増やしている。	アセスメント、モニタリング時以外でも直接状況等を口頭で伝えてもらったり、緊急の場合電話で連絡を取り合っています。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	6	3	参加者の増加のための声かけをする。	保護者に対してペアレントトレーニングをしています。現在は新型コロナウイルスの影響で行えていません。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	0	保護者との会話のなかでもこれに触れていく。	利用契約書を取り交わす時、文書を読み上げ説明しています。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8	1	保護者の確認を得て行う。	要求があった場合には常時情報の提供できる体制は整えています。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	1	情報の収集に努める。	要求があった場合には常時情報の提供できる体制は整えています。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	3	情報の収集に努める。	新型コロナウイルスの影響で行えていない。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8	1	情報の収集に努める。	要求があった場合には常時情報の提供できる体制は整えている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	1	請求書等と同封にて送管している。	定期的に会報を発行し、保護者に届けています。ラインを毎日更新する等ネットを活用した情報発信も行っています。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	9	0	職員の個人情報の漏洩にも注意している。	個人情報には十分注意して部外者に知られないようにしている。個人情報の記載された書類は書庫への保管施錠を行っている。不要な書類はシュレッダーを掛けています。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0	必要時は行政とも連携をとり、支援する。	子どもに関してはイラストを使って(構造化)意思疎通を行っている。保護者には傾聴、具体例を示しながら情報を得るようにしています。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	8	1	小さな活動では、地域清掃、町内の清掃活動もある。	毎年夏祭りを開催しています。また、外部からの講師を招き、児童に対する支援等について講演会を行っています。現在は新型コロナウイルスの影響にて行えていません。
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	3	各マニュアルと保護者との距離を詰める。
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	3	活動にて避難経路図を作成。貼付している。	活動の中で定期的に地震や火災などの避難訓練を行っています。その他職員向けに防犯訓練を実施しました。
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	9	0	契約時明確にする。	受け入れる場合は職員配置、主治医、協力医療機関と体制を整えます。
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9	0	食物アレルギーにはアセスメントより十分注意しリスクを避ける。	アセスメントで保護者から子どもの食物アレルギーを確認しているが医師の指示書に基づいている訳ではありません。
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	3	都度、全体にも報告。全体として捉える。	ヒヤリハット事例は文書化し職員間でその都度共有しているが事例集の作成に至っていません。
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	1	全職員がこれを必須とし、熟知、実行している。事業所内研修を実施している。	虐待防止研修を外部講師を招いて継続的に実施しています。
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8	1	身体拘束は絶対に行わないと職員間で共通理解している。	身体拘束は一切しておりません。生命に危険を及ぼす可能性がある場合はこれを阻止し、記録に残していきます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。